

Title	中国における日系企業の現地管理の考察 - 日本人駐在員が持つ偏見の管理への影響について -
Sub Title	
Author	浅野, 政臣(Asano, Masaomi) 河野, 宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2004
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2004年度経営学 第1924号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002004-1924

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	河野 研究会	学籍番号	80328028	氏名	浅野 政臣
(論文題名)					
中国における日系企業の現地管理の考察 —日本人駐在員が持つ偏見の管理への影響について—					
(内容の要旨)					
<p>昨今、生産移転を目的に中国へ進出する日系企業が急速に増えてきているのは周知の事実である。その場合、現地組織においては、少数の日本人駐在員が大多数の中国人従業員を管理することになる。そのような背景の下、現地における経営管理や技術指導のために派遣された日本人駐在員は、文化や習慣の異なる不慣れな環境で生活することに加え、仕事において日本では当たり前であったことが通用しないという場面に直面することが多い。</p> <p>そのような状況において、日本人駐在員は中国人従業員に対して心理的なギャップを感じやすい。中には、中国人に対して感情的にネガティブになり、偏見と言わざるをえないような見方をする日本人駐在員が少なからず存在すると思われる。「日本人が上で中国人が下」、「中国人は信用できない」といった偏見を持ってしまった日本人駐在員は、ローカルの中国人従業員をどのように管理しているのだろうか。中国人従業員を全く信用せず、仕事上の失敗やトラブルに対して責任追及に走ったり怒鳴り散らしたりして、厳しい管理体制を敷いているのではないか。それは現地管理のあり方として相応しいものなのだろうか。このような日本人駐在員に対する素朴な疑問が私の問題意識である。</p> <p>このような問題意識に則って、日本人駐在員が中国人に対してどのような認識を持ち、そして現地管理のあり方をどのように考えているのかということ明らかにするために、現地の日系企業を訪問し、インタビュー調査を行った。その結果、偏見を持った日本人駐在員の存在を確認することができたが、彼らの偏見と管理に対する考え方との間に、問題意識通りの因果関係を見出すことができなかった。そこで、なぜ因果関係が見出せないのかということについての分析と考察を重ねた結果、現地トップのリーダーシップが日本人駐在員の管理に対する考え方に強く影響していることがわかった。そして、インタビュー調査のまとめとして、「中国人中心主義」という私なりの現地管理のあり方を提示するに至った。「中国人中心主義」に基づいた現地経営が行われれば、日本人駐在員に内在する偏見の管理への影響、そして組織への影響を限りなく軽減できるだろう。この「中国人中心主義」が私の研究の成果であり、中国の日系企業、日本人駐在員に対して、現地管理のあり方についての示唆を与えるものであると考えている。</p>					